

医療を考える会

NPO 法人医療を考える会発行 平成 21 年 2 月 26 日 No.10

住所 渋谷区代々木 2-24-7 代々木グリーンハイム 210 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メールアドレス iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp



第 3 回 体験学習会開催

2 月 22 日（日）に、中野区勤労福祉会館にて「花粉症から抜け出し、春を楽しく」というテーマで第三回目の体験学習会が行われました。講師に、NPO 会員の荒木文雄先生・鈴木美江先生をむかえ、会員・一般の方々計 17 名が参加されました。

まず、荒木先生の資料をもとにした説明がありました。治療方針・治療方法や治療期間（1 日 1 回で 1 2 回を 1 クールとする。1~3 ヶ月は必要である）、治療費も患者に納得してもらってから始める、などの内容でした。

次に、会員の山西さんに治療を体験して頂く事になりました。まず、脈診後、経絡治療をし、全身の反応を調べ左手のひとさし指の爪の際（外少商）から於血を取りました。両手の治療終了後に、鈴木先生の資料をもとに鍼灸治療に入りました。山西さんは鼻づまり、目のかゆみを訴えていましたが、施術後には「鼻もすっきりし、身体全体が軽くなった」との感想でした。

荒木先生によると於血を取るのに

採血針をいろいろ試されたそうで、糖尿病で使う採血用穿刺器具が一番よく、きちんとした知識があれば誰にでも使うことができ、有効な治療法だという事で、参加者の中に器具を購入し自分で治療したいという方も大勢いらっしゃいました。



〔左から〕鈴木先生・荒木先生

両先生の治療後、質疑応答の時間が持たれました。食事が洋風化した事、環境の変化（道がアスファルト舗装になった、大気汚染、杉植林の激増など）が花粉症の主因ではないかとの説明がありました。自分の居住地 30 キロ

以内で作られている旬の物を食べる・身体を温める物を食べ、冷やさないようにする、といった、誰にでもできる具体的なアドバイスも沢山教えていただきました。花粉症以外の患者さんの話もあり、鈴木先生から鍼灸の治療法の話がうかがえました。

両先生の資料も図入りでとても分かりやすく、また実際の治療を目の前で見る事により、鍼灸治療がとても身近に感じられた体験会となりました。

.....

花粉症治療体験学習会に参加して 山西俊夫

私の場合、花粉症とは三十年来のつきあいです。今年の4月で64歳になりますので、確か三十路を迎えてからだったと思います。小学校に上がる迄は天竜杉の産地の山村で育ちましたが、当時は花粉症なる現代病などまるで無縁な社会でした。2月から4月の3ヶ月間の、一年で最も生命の息吹が感じられる最良の 때가、今では最も憂鬱でブルーな時期に変わって久しいものですからこんなにアンラッキーなことはありません。勤務先の工場が群馬県にありますが、春を迎えると工場のおばさんや若い人が皆一様にマスクをかけ出します。この時期に海外出張すると花粉症状がぴたっとなくなるので、これは日本の国民病と言っていいと思います。

そのような訳で、今回の『花粉症治療の体験学習会』は大変タイムリーな

催しでした。皆様のご尽力に多謝です。同時に、先生方のご協力を得て例年の行事にすることで、花粉症に悩んでおられる方々との交流を密にすることを通じて、医療を考える会の運動を広めることが出来たら素晴らしいと思います。

お忙しい中、レジュメまで用意していただいて学習会の講師を快く引き受けて下さった、荒木先生と鈴木先生には心から感謝申し上げます。当日はたまたま花粉症状が本格的に出ていた私が指名を受けて患者役になりましたが、みなさんの真剣な熱気が段々と高まってくるのが伝わってきました。初めて経験する未知の世界に身を置くのはずいぶんと緊張するものですね。でも貴重な体験ができてラッキーでした。先生方の、“少商”、“刺絡”といった初めて聞く専門用語に戸惑いを感じましたが、興味深い内容で講演をもっとお聞きしたく思いました。今までは、どちらかという縁遠かった鍼灸治療が、急に身近に感じられて開眼した思いがしました。おかげで新たな知識が増えたことを実感しています。



[モデルになった山西さんを囲んで]

当日参加された方は17名で、一般の方の参加者は確か数名に留まっていたと思います。これだけ中身の充実した体験学習を受けられるのとそうでないのでは、生きる上で重要な機会獲得と喪失の違いが存在すると思います。一人でも多くの方に東洋医学の真髄を理解していただくにはどうしたらいいだろうか、新役員として、動員力不足を素直に反省し今後の課題にしたいと思います。

追伸、群馬に来て、荒木先生に教わった、カワチ薬局スーパーでオムロンとテルモの糖尿病用血液採取の器具を見ましたが、いずれも測定器とのセット販売でしたので、今回は購入を見合わせました。

- ・少商（しょうしょう）…手の親指の爪の内側付け根角のツボ
- ・刺絡（しらく）…手足の指先にあるツボに刺鍼して微出血させて体調改善をはかる治療法



編集後記

・体験学習会への参加で、自分の受けている鍼灸マッサージの治療を目で見ることができます。また、具体的なアドバイスも色々な先生方から教えていただける大変貴重な時間だと思います。皆様方、どうぞこれからの企画にご参加下さい

・高い保険料を毎月支払っているが、鍼灸・マッサージ治療を保険で受けるには様々な制約がある。

1. 医師の同意書が必要
2. 鍼灸治療は6疾患のみに限定。
マッサージ治療は麻痺・拘縮がある部分のみ。1局所255円・5局所まで、等々…。

ちなみに、花粉症の治療は保険の適用外となる。

施術師の先生方の願いと患者の願いを実現するためには、皆で学習し、声を大きくしていく以外にない事を確認しました。

・会員の皆様には、先般、会費のご請求を送らせていただきましたが、早速のご納入ありがとうございます。皆様にとって有意義なNPO活動でありますように、今後とも工夫してゆきたいと思います。会費について、また、活動についてのご要望・アイデア等どんどんお寄せいただきたいと思います。イベントに参加してのご感想もお待ちしております。

書籍紹介

免疫の力を引き出す刺絡治療

花粉症治療の懇談会は、鍼灸治療（刺絡治療）のすばらしさを改めて教えてもらった懇談会でした。刺絡治療とは花粉症治療の有力な治療方法として、手、足の指先にある〇ぼに刺鍼して微出血をさせ、体調改善をはかる治療方法です。

新潟大学大学院医学部の安保徹教授は、病気の治療、予防の基本が生活改善、体質改善による免疫力（自然治癒力）の強化であることを解明し、いろいろの著作を著しています。免疫の力を強める方法として東洋医療を評価し、刺絡治療も有力な治療方法と認めています。

安保教授の理論に共鳴し、癌の治療の一方法として刺絡を行う医師もでています。病気を理解する上で安保教授の免疫論は大変勉強になります。

みなさん一度目を通してください。地域の図書館にもある書籍です。 (久下勝通)

病気は自分で治すー免疫学 101 の処方箋

安保 徹（あぼ とおる）著 新潮社



*** 今後の活動予定 ***

4月16日（木）

鍼灸マッサージの効能と普及について、都議会に対しての要請行動を行います。

6月14日（日）10：30～12：30

都立小平薬草園見学

講師 緒方勝之（薬剤師）

*講師の解説を聞きながら薬草園を見学します。見学後に食事をしながら交流会をする予定です。
